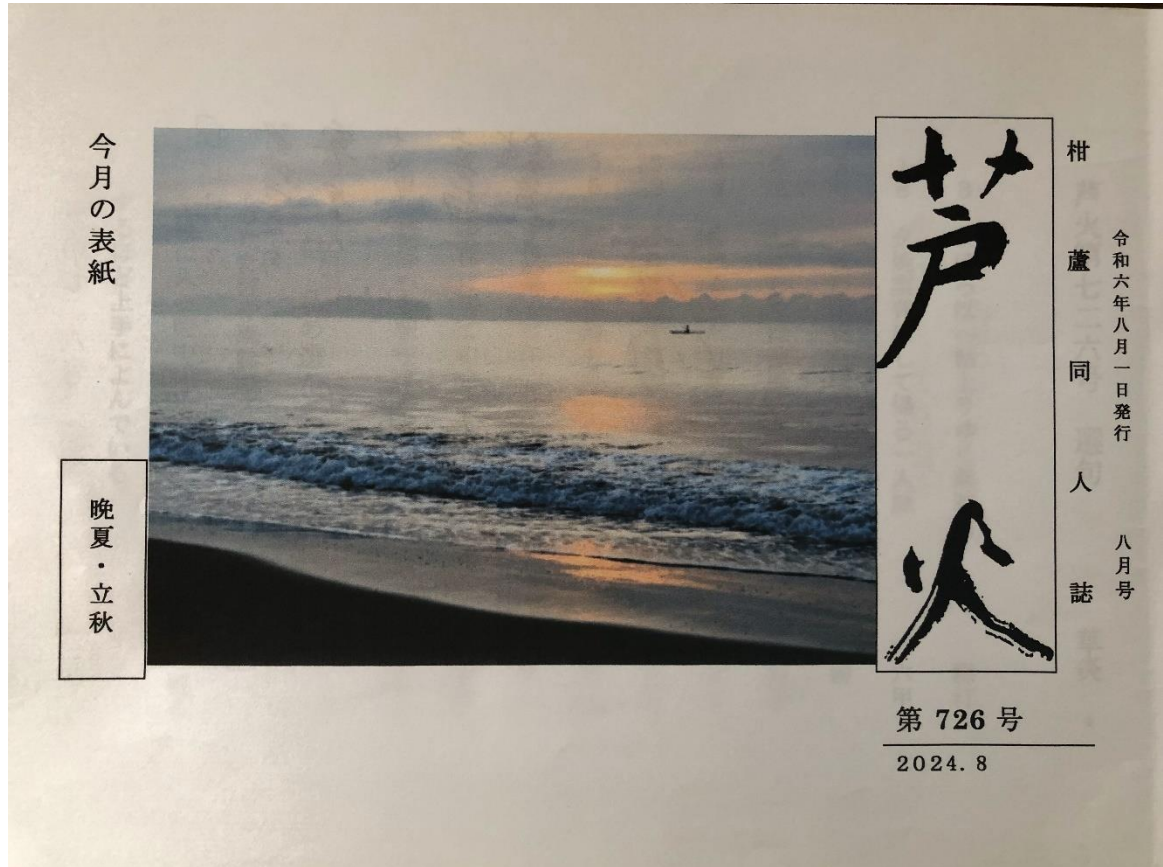


俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第726号（令和六年八月号）表紙

- ・夏の季語：「晩夏（晩夏・時候）」
- ・来月号（九月号）の兼題



<晩夏>

夏の末で、暑さはさかりだが、どことなく秋の気配がしのび寄り始める。土用波、入道雲に代わるうろこ雲は、台風の接近をしらせ、秋の到来をしらせる。日のきびしさもおとろえ、草木の繁茂もおわりになる。

(子季語) 季夏／晩夏光

季語「晩夏」を詠った有名俳人の句に以下のようなものがあります。

- | | |
|------------------|-------|
| ・眠れねば晩夏夜あけの冷さなど | 中村草田男 |
| ・晩夏光刃物そこらにある怖れ | 大野林火 |
| ・蝶にのみ風あるごとし晩夏光 | 横山白虹 |
| ・火をあげて晩夏の山のいなびかり | 百合山羽公 |
| ・縁に垂らすわが足大いなる晩夏 | 桂信子 |
| ・どれも口美し晩夏のジャズ一団 | 金子兜太 |

☆高得点者および高得点句

*前月の清記表に記載された13名の91句のなかから互選の結果、以下の同人が高得点者となりました。併せて高得点句も掲載します。

<高得点者(敬称略)>

19点 恵吾

17点 史浩、16点 温州、14点 六甲、12点 甲舟、11点 緑汀

<高得点句(5点以上)>

- ・禅寺の朝の静寂や沙羅の花／恵吾・・・6点
- ・まほろばへ鮎上り行く熊野川／緑汀・・・5点
- ・青梅の尻ほんのりと紅に／恵吾・・・5点
- ・せせらぎもメニューのひとつ夏料理／温州・5点
- ・籐椅子やジャズの流るる喫茶店／甲舟・・・5点

<4点句(惜しい!もう少しで5点)>

- ・奥宮へ続く参道夏木立／温州
- ・声立てて笑う幸せ青葉風／史浩
- ・妻傍に居ての余生や夜のメロン／史浩
- ・風薫る忍者の里や芭蕉句碑／恵吾
- ・故郷へ各駅停車手毬花／史浩

☆その他のトピックス

①「散歩道の自然～写真解説」：安本緑汀さん

今月号ではツツジを取り上げ解説されています。



○右上：ヒラドツツジ(平戸躑躅)

・江戸時代に長崎県平戸市の武家屋敷で自然交配により生まれたとのことで三百近い品

種がある。各地のツツジの名勝地ではこのヒラドツツジが多く栽培されている。九州では江戸時代に武家を中心に新種作出や改良が進められ、今日のツツジは平戸、霧島、久留米、雲仙など九州生まれのツツジが主流となっている。

○左上：モチツツジ（毛知豆々白）

・山梨県、静岡県以西の低い山地に自生。古くから庭に植えられている。

○右下：クルメツツジ（久留米躑躅）

・江戸時代末期に久留米藩で作出されたツツジで樹形がコンパクト、花色が多彩で鮮明、花数も多く二重咲もあり沢山の品種が現存。主に鉢植えであるが、花壇植えされることもある。

○左下：シュジョウツツジ（衆生躑躅）

・東南アジア原産。花は紫がかった色。葉が出るより先に満開となり、山を花の色に染めることから中国では「満山紅」と呼ばれている

②緑汀さんの「散歩道の自然」：後藤碧亥さん

- ・先月号の「散歩道の自然～写真解説」で安本緑汀さんからご紹介のあった『ヤマナシ（山梨）、ウンナンソケイ（雲南素馨）、ニワウメ（庭梅）、アセビ（馬酔木）』に関連したエッセイを寄せられています。
- ・ここ数年コロナで中断していた十年程前からの年に一度のお嬢様二人と碧亥さんご夫婦の四人での家族旅行を久しぶりに再開されたそうです。
- ・金沢市への旅行では名勝兼六園で景色を愛で、茶店の名物「金箔ソフトクリーム」とオーヒューでホッと一息ついたと。
- ・茶店に続く遊歩道沿いに白い馬酔木の花が可憐に咲いていたそうです。

城下町見下す名園花馬酔木 碧亥

③五十年振りの「弓道部」二十期同期会開催：平林温州

- ・同期卒業十四人中関西在住の六名が大阪キタのお初天神商店街の居酒屋で五十年振りの同期会を開催。
- ・五十年振りのとは言え、やはり学生時代の面影があり、すぐにお互いの名前を確認。
- ・二時間余りの懇親会では近況報告に加え学生時代の思い出話に花が咲き、次回は灘五郷の酒蔵が運営する施設で開催しようということになった。
- ・出席した内の一人が、小生等も映っている先輩方の卒業時の写真を持参していて、大変懐かしく拝見した。



第17期生卒業記念
S 44. 1. 25

④一句鑑賞：河本要様

百日草百日咲けばよろしかろ

- ・要さんは以下のコメントと共に掲句を紹介されています。

「商社マンとして厳しいサラリーマン生活を定年で終えた男性が、病で倒れた。酒も飲めず、煙草も吸えない。イライラのあまり、奥さんに辛く当たる。そこへ年来の友人が来た。話を聞いてくれて花束を置いていった。帰ったあと、よく見てみれば花の中に短冊があり、この句が書いてあった。

その意味は「百日草は百日咲けばいいわけで、あなたも立派に務めを果たしのだから、あとは奥さんの言うことを聞きなさい」

その後、この男性は見事に病を治したそうである。」

⑤次の方々が近況報告をされています。

- ・河本要様
- ・後藤碧亥様
- ・北草炎様

⑥紀伊風土記の丘：穂永穂心様

- ・大学時代のクラブのOB会幹事の打ち合わせで和歌山を訪れた際に「紀伊風土記の丘を尋ねられたそうです。

手を揚げて出迎ふ埴輪青時雨 穂心

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
 - ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の13名
 - ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
 - ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
 - ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
 - ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
 - ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）
- <編集者・コンタクト先および会費>
- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
 - ・その他のコンタクト先：
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
 - ・会費：年会費1万2千円

以上
(文責：平林 温州)